







私はただの

帽子屋  
ですから

なんなんすか  
あの野郎は！

いかれ帽子屋

城からも見える  
ご大層なお屋敷に  
住んどる御仁や

幾ら城来て挨拶  
せえよ言うても  
音沙汰無しで

今回強制的に  
お呼び出しに  
なっでもうたん  
やと

んなこた  
俺だって  
知ってます！

あの態度が気に  
くわねえんすよ！  
スカしやがって！

小綺麗な男ばっか  
ぎょうさん集めて  
屋敷に住まわせては

四六時中茶会や  
パーティー開いとる  
つちゆう話やで

けったいな  
御趣味やのう





あいつがなんで  
ここを出て  
帽子屋なんぞに  
ついてったんか



噂の出所は  
わからへんし  
そもそもが  
ありえへん話  
やけど

もしもそう  
なんやったら  
あいつのことも  
納得いくかもな



俺！  
ああいう奴  
なんか嫌っす



折角みんな  
アンのために  
やったのに

ただ難癖  
つけただけ  
じゃないっすか

わざわざ  
あんなこと  
言うのに

みんな楽しく  
やってんのに

尊さんだつて  
いいんじゃないの  
って言うてくれて



悪いとこしか  
見えねえ

根性曲がって  
んすよ

空気が  
読めてねえ  
んすよ



そんなこと  
言ったら

一人に  
なっちゃうじゃ  
ないすか



みんなに  
白い目で  
見られて  
避けられて

折角見つけた  
居場所じゃ  
なくなっちゃう  
じゃないすか

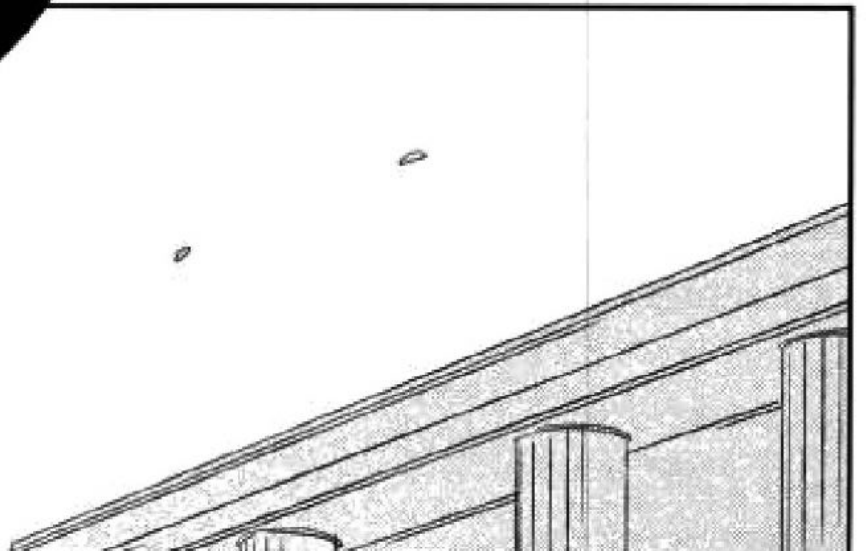


八田…


みんなと  
同じに思え  
ないなんて

そんなの

さびしい  
ばかりだ…








怒られると  
したら私の方です

気分を書かれた  
のではないですか？

そ·う·い·う·話·を·  
致·し·ま·し·た·の·で



てめえ今  
なんつった！

こら  
八田ちゃん！



……!



滑稽ですわと  
申し上げたん  
です

赤いペンキで  
塗った白い薔薇  
なんて



別に私は貴方が  
白薔薇を赤く塗ろうが  
赤薔薇を白く塗ろうが  
知ったことじゃあない

ただ城まで来て  
王の前で思う  
ところを述べよと  
言われたので  
そうしたまで



今更だろうが  
いかれ野郎



赤い薔薇は  
無いわけじゃ  
ない

つくづく  
貴方とは  
合いませんね



いや……挨拶して  
なんか一言でも  
あればちゅーた  
だけで……



ア  
ン  
ナ  
の  
千  
里  
眼  
の  
こ  
と  
も  
知  
っ  
て  
た  
か  
あ



誰  
よ  
り  
も  
全  
て  
が  
見  
え  
て  
お  
い  
で  
な  
特  
別  
な  
御  
方



あ  
の  
ベ  
ン  
キ  
は  
赤  
し  
か  
見  
え  
な  
い  
姫  
の  
た  
め  
な  
の  
で  
し  
よ  
う

聡  
明  
で  
愛  
ら  
し  
く  
思  
慮  
深  
い



《  
赤  
の  
王  
》

貴  
方  
が  
全  
て  
を  
承  
知  
で  
行  
う  
の  
な  
ら  
い  
い



戦  
争  
だ  
っ  
て  
な  
ん  
だ  
っ  
て  
や  
り  
た  
け  
れ  
ば  
や  
る  
と  
い  
い  
ば

薔薇をペンキで  
塗るのもいい

ペンキを塗り  
たくられた  
白薔薇を見て姫が  
哀れと感じて

ペンキ

植え間違えた  
事実を赤色で  
塗り潰して  
しまうことが

(王)の誠意  
なのかも  
問われても

木も切らずに  
済んで赤い薔薇も  
見せることが  
できて

全く良いこと  
しか起こって  
いないと

そう思って  
もらえるという  
考えそのものが

こいつ…薔薇の  
話しとるん  
ちやうやんけ…っ

他人を  
舐めていると

貴方が  
分かっ  
てるなら



てめえ!!!

姫は全てを  
分かった上で  
それでも感謝  
してくださる  
でしょう

でなければ  
彼女はこの国  
には住んで  
いない

そうして  
幸福は過ちの  
免罪符になる

貴方は  
赤いペンキを  
選んだ

何も変えないまま  
覆い隠して全てが  
上手くいっている  
ような顔をした

これが  
お前の国か  
周防

やはり  
滑稽だよ

はっ

はっ……

あ、  
笑った

たかが帽子屋が  
たいそうなこと  
抜かすじゃねえか

首を  
刎ねるぞ？  
宗像

だって私は  
いかれ帽子屋

貴方が正気に  
思えることなど  
語りません

それを貴方が  
許さないなら  
どうぞ首を  
刎ねるといい

刎ねる覚悟が

おありならね

ボウシヤは

この国に  
住んでるのに

この国の人  
じゃないみたい



私は私を  
この国の

彼の国の人間だと  
思ったことは  
一度もない

おそらく彼も  
そうでしょう

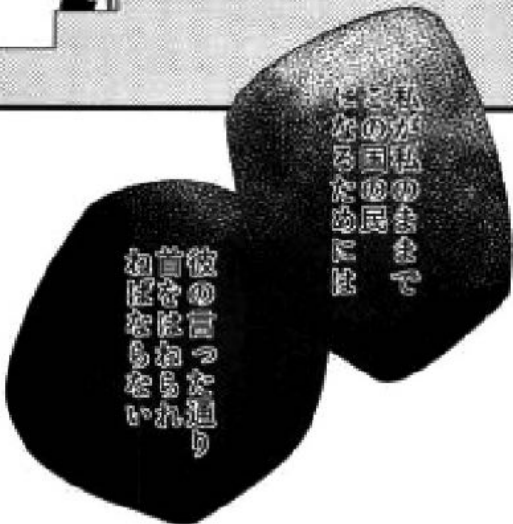


…王様、よりも  
側近の方々に  
内緒にしておい  
てくださいね



私が私のままで  
この国の民  
になるためには

彼の言った通り  
首をはねられ  
おぼろもをい







尊は…そんな  
ことしない

そう  
でしょう？

だから私は  
この国の人間  
には絶対に  
なれない

なれないし  
ならないし



私は…  
この国が好き

ミコトのいる  
みんなのいる  
この国が好き



この国を  
みんなを  
大事にしたい



それはとても  
結構なこと  
かと…



花を切ることと  
花を塗ることと  
どちらも考えに  
よつては残酷  
ですが

では何故私が  
あのような話を  
持ち出したのか

3!



この花束は  
私の国です

—これが  
お前の国か



貴女も

お運びに  
なるといい



帰ったふりして  
定石だ  
帰ってやつか

トツ...



しかし  
便利な  
通路  
だな

でしよう？  
伏見くんが嫌々  
作ってくれました  
諜報活動には  
打って付けです

どこにでもいて  
どこにもいない  
チェシヤ猫の力



スズ...

殺人犯ですか  
私は...

貴方がそうしろと  
言うから一度  
屋敷に戻る手間を  
踏んだというのに



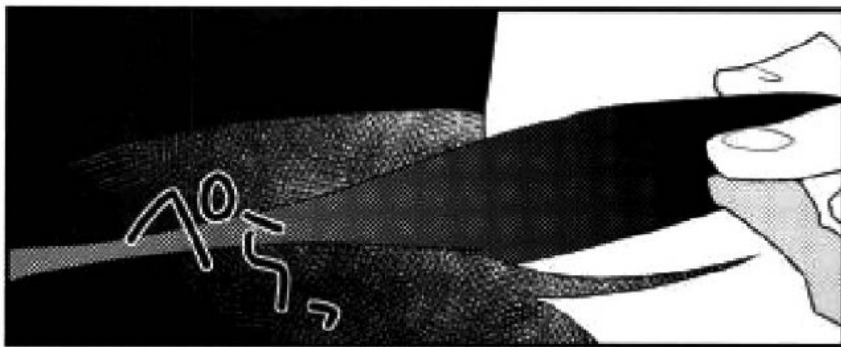
この国のどこに  
そんなことする  
意味があるのかは  
知らねえけどな



おや  
人の口に戸は  
立てられぬ  
ものですね



てめえが元は  
《王》だったってな  
噂が流れてるぜ



ゴッ



だがてめえは  
《王》じゃねえ



そうなん  
ですよねえ



気付くと  
こうだ

つくづく  
《王》は呪いと  
相違ない

この世界の  
王は

天に大層な  
力を与えられる  
わけでもなし

巨下に特別な  
恩恵を与えられる  
でもなし

その代償に空から  
剣が降ってくる  
でもない

剣…?

王道も情性になる  
崇拜も情性になり  
忠誠も情性になり

本当にただ頭に  
のっかっている  
だけの

この王冠  
みたいなものだ

止まる水が  
腐るように

世界は  
腐っていく



…お前が俺に  
それを聞くとほ



それが「幸せ」か？



苦しみもない  
怒りもない

俺はたぶん  
それを抱いた  
ことがない



お前は一体  
何を知っている？

茶会と言って  
困い男共に一体  
何をさせてやがる



それでは  
良いはず  
なのに

やたらと  
乾く



俺は一体  
何を知っていた？



だから  
知りたい

とは言え私も  
何も知らない

私がおこに  
生きてること  
以外は何も



お前のただの  
馬鹿ではない  
ところ

嫌いで  
はないな



この国の不思議に  
「不思議の国だから」  
じゃあ答えに  
なっていない

そうじゃあない  
それじゃあない





腹を裂けば  
人は死ぬぞ

それでもか？

それでもです



「幸せ」という  
腹を裂かれたく  
なくせに

そのために  
戦うことは  
できないの  
ですか？



それとも  
裂かないでと  
願っていただ

私は裂かずに  
いられるの  
ですか？

：お前のことを  
俺に聞くなよ  
いかれ野郎

帽子屋です

乾くんだろうか？





：てめえの首は  
やっぱいいな宗像  
方が



裂いた腹から  
零れるものを  
飲んで

喉を潤したい  
のはお前じゃ  
ないのか周防



覚悟があるなら  
刎ねればいいと

だから言った  
じゃないですか



何故？  
どうして？

この国はおかしい  
じゃないと



稀人が問うた

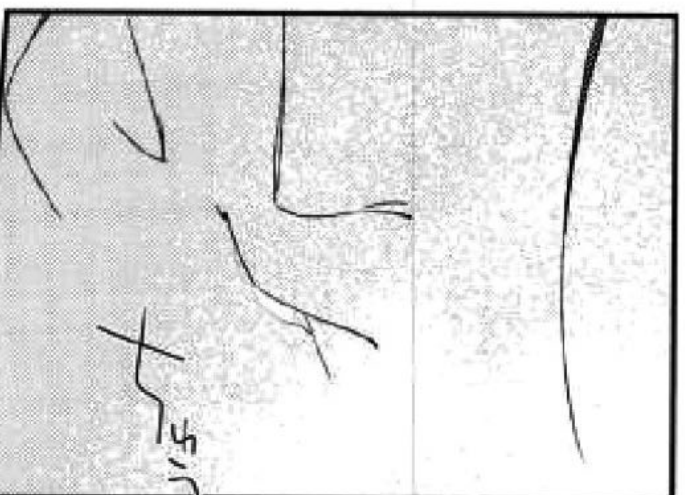
なる...



何故って何故？  
どうしてって  
どうして？

おかしな  
この国は  
だつたから

これから  
きつとそう  
だろうと





この先も白薔薇を  
植え違えては  
ペンキで赤く  
塗るのだろうか



間違えて  
塗り潰して  
間違えて  
塗り潰して





体も、胸も  
熱いが終われば  
また乾く

じゃあなんで  
こんなこと  
やってんだ



ニヤニヤ



そうだな

そうやって



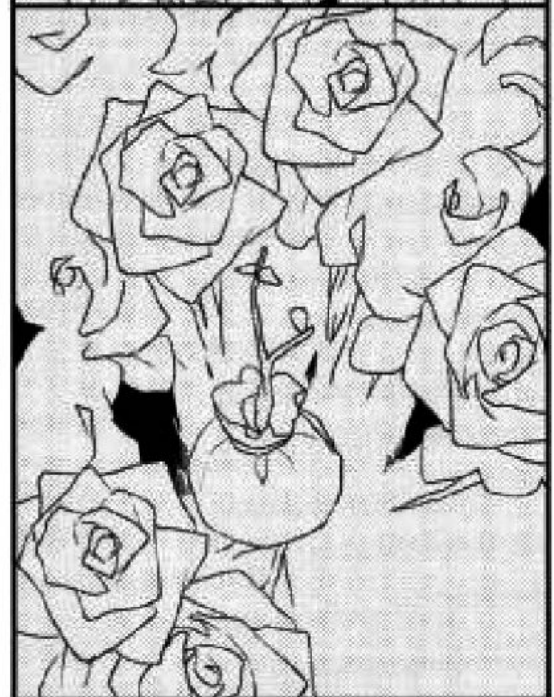
は

死ぬのも

悪くない



…帰ったか





私を喜ばせ  
ようとして  
くれた心が

すごく  
嬉しかった



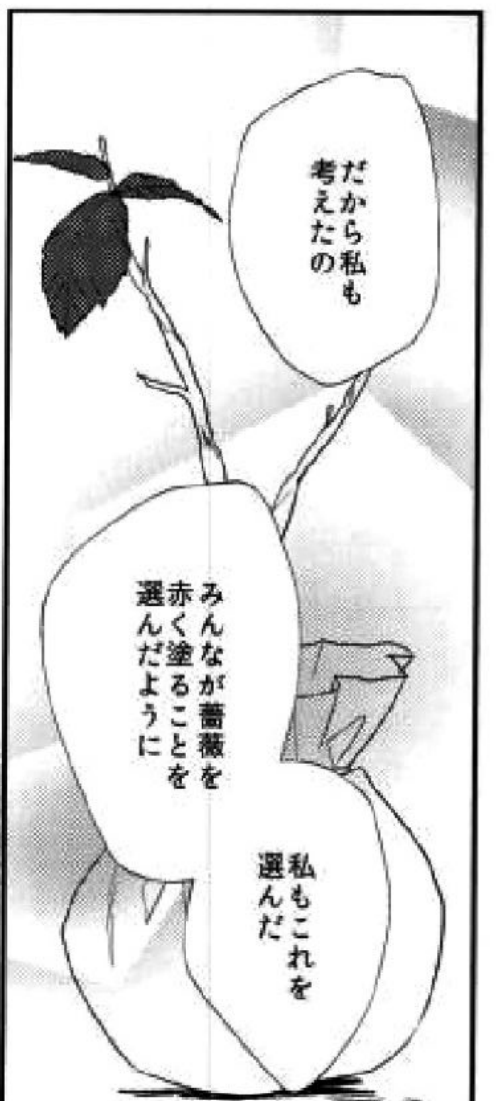
みんなが  
私のことを想って  
薔薇を赤く塗って  
くれたこと

すごく  
嬉しかった



もしかしたら  
私がこれを選  
んだことで

みんなが選んだ  
ことを否定する  
ことにならない  
かもしれない



だから私も  
考えたの

みんなが薔薇を  
赤く塗ることに  
選んだように

私もこれを  
選んだ



そう、思う  
誰かもある  
かもしれない

みんなと  
同じに思え  
ないなんて...



私が私の意志で  
何かを選ぶことは

みんなと一緒に  
選ぶことはないとは

みんなの気持ちを  
裏切ることも  
ないかもしれない

でも

私は私の  
大切な人達を

私の思う一番の  
綺麗な赤を見て  
ほしいから

私のできる  
精一杯で大切に  
したいから

そうやって  
選んだらこれ

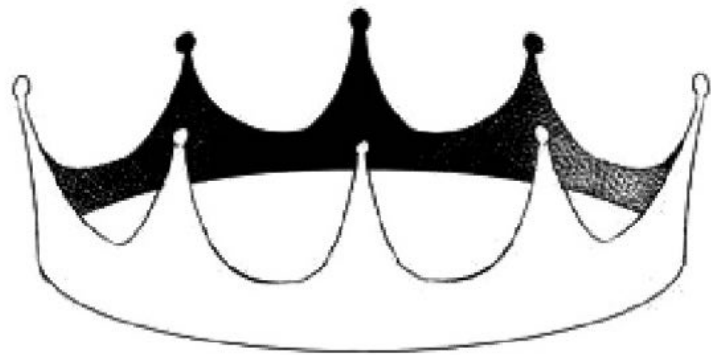




俺も、これにした



本当のことは誰も知らない  
何処かにある、不思議の国



Ma

Makoto Suoh x Reishi-Munakata. Presented by solaris(hrmt)